

旅人の暫しの帰宅——中国大使館での交流にて

国際関係学院学生代表

見学日時：2017年12月4日（月） 14:00-15:30

見学場所：中国駐日本国大使館

見学概要

まず初めに代表団の程海波団長からの挨拶があった。程団長からは今回の訪問活動の内容についての紹介の他、中国大使館の日頃の業務への感謝そして今回の中国大使館での交流における期待が述べられた。

その後、中国駐日本国大使館の郭燕公使からお話があり、今回の代表団に訪日の機会を提供した各関係者への感謝の意の他、代表団の中国大使館訪問への歓迎の意が示された。

次いで、代表団の6大学の代表者が企業見学やホームステイ、日本の環境保全への取り組みなどこの数日間の日本訪問での経験や感想についてそれぞれの思いを述べた。

その後の質疑応答のコーナーでは、学生からの質問に郭公使が丁寧に回答された他、郭公使からは皆の前途への祝福の意が示された。そして最後に国章の下で記念撮影をし、今回の中国大使館での交流は円満に終了した。



なぜですか？

- 1) ここ数年、中国の多くの都市においてキャッシュレスのライフスタイルを始める人がますます増えている。中国においてキャッシュレス決済を利用する実名制ユーザーは4.5億人を超えており、中国のアントフィナンシャルとインドの提携パートナーが開始したインド版の支付宝のPaytmユーザーは2.2億人を超え、世界3位の電子ウォレットとなっている。中国は世界のキャッシュレス化ランキングの第6位で、キャッシュレス決済の比率はここ5年間で2倍になった。日本は現金大国で、世界のキャッシュレス化ランキングでは第9位、ここ5年間でのキャッシュレス決済の比率は5%増加した。
- 2) 日中友好の土台は民間にあり、日中関係の前途は両国の人々に委ねられている。日中双方は歴史を鑑とし未来に向かう精神により、日中の4つの政治文書を基礎として平和的発展を互いに促進し、長きに渡る友好関係を構築することで、アジアそして世界の平和に貢献しなければならない。「国の交わりは民相親しきにあり」、両国の民間による相互交流や理解は、両国関係の更なる改善推進を後押しするのである。

感想

中国駐日本国大使館では郭燕公使からのもてなしを受け、郭公使からは日中両国間の複雑な関係性や意見の不一致が存在する点などについて紹介があり、学生からはたくさんの質問提起があった。それらの中には日米関係の中国の外交政策への影響に関するものなどもあったが、郭公使は平和、発展、協力、相互利益を旗印とする原則に基づき、私たちの質問に回答されていた。

統計によると、日中関係が最も冷え込んでいた時期、90%の日本の民衆は中国への好感がなかった。その原因の一部には日本のメディアの不充分そして客観性を欠いた報道があり、また一部には日中の交流不足がある。例えば今回の交流において、一部の日本人は中国の食べ物を食べるとお腹を壊すと考えていた。この点についてはとても残念に感じている。中国の隣国である日本にとって、中国と良好な外交関係を維持することはとても重要であり、同時にこうした良好な外交関係は政府間の交流だけに限らず、より多くの部分で日中の民間の友好交流にかかっている。

日中関係について私たちは歴史的、客観的そして開放的な姿勢で見ていく必要がある。問題はどちらか一方のものではなく、過激な行為は日中関係をより硬直化させるだけである。今後国の柱石となるべき私たちは、尚のこと日中関係を正しく認識し、日中両国の新たな交流・協力分野を積極的に開拓し、民間の力で私たちの友好への願いを伝えていかなければならない。

「国の交わりは民相親しきにあり」、両国の民間による相互交流や理解は、両国関係の更なる改善推進を後押しするのである。私たちもホームステイといった活動をより多く展開し、日本から交流に訪れる学生をもてなし、中国の姿を紹介していく必要がある。また同時に中国企業見学のプロジェクトを展開し、中国の技術を紹介することで日本人々により直観的に中国を知ってもらい、両国間における真の利益や需要を可能な限り明確にし、日中の民間の友好関係を発展させていかなければならない。